

## I 概要

### 桜井市議会産業建設委員会所属議員行政視察

1 期 日 令和7年10月15日（水）～16日（木）

2 派遣委員 (委員長) 山岡 康了 (副委員長) 西 忠吉  
(委員) 杉山 歳和 (委員) 井戸 良美  
(委員) 大西 亘 (委員) 阪口 豊  
議長 土家 靖起

以上 7名

3 視察地 岡山県真庭市



4 視察目的 **【岡山県真庭市】**  
真庭SDGs バイオマス事業について調査する。

本委員会の所属議員は、議会の議決を得て、上記のとおり派遣を許可され、視察事項のとおり研修を行う。

## II 研修内容のまとめ

1 日目に、真庭市役所において「真庭市及び真庭市議会の概要」、「真庭SDGs バイオマス事業」等について説明を受けた後、質疑応答を行い、2 日目に、その説明のあった施設（真庭バイオマス集積基地第二工場・真庭バイオマス発電所）を現地視察した。

### ● 真庭市の概要

#### 1 真庭市の誕生

真庭市は、「勝山町」、「落合町」、「湯原町」、「北房町」、「久世町」、「美甘村」、「川上村」、「八束村」、「中和村」の9町村の合併により、平成17年3月31日に誕生し、岡山県内で最も広い面積を持つ自治体となった。

#### 2 真庭市の概要

真庭市は、岡山県の北部に位置し、中国山地のほぼ中央にあり、北は鳥取県に接しており、東西約30km、南北約50kmの広がりを見せており、総面積は岡山県下で最も占めていることから、土地活用の可能性の最も大きな市である。

年間を通じて比較的穏やかな気候であり、台風や地震などによる災害も総じて少ない地域ではあるが、北部地域の一部では豪雪地帯に指定されている。

また北部地域は、大山隠岐国立公園の一部であり、「蒜山三座」をはじめ、津黒山など標高1,000m級の山々が鳥取県との県境を形成しており、その南部には、蒜山三座や津黒高原などの広大な高原地帯が広がり、牧歌的な高原風景を醸し出している。

また蒜山高原では、酪農が盛んで、特に飼育頭数日本一を誇るジャージー牛の乳製品は、全国的にも知られるところである。

人	口	40,078	人
世	帯	17,316	世帯
面	積	828.53	km <sup>2</sup>

※ 人口・世帯・面積：令和7年10月1日現在

産業別就業人口 (R2国勢調査)	第1次	2,810人	12.8%
	第2次	5,745人	26.3%
	第3次	12,698人	58.1%
	不明	620人	2.8%
	合計	21,873人	100.0%

## ● 主な質疑応答

**問.** バイオマス発電事業について、年間300日以上稼働している発電所において、環境面における問題、近隣トラブル等があったのか。また燃料（材木等）の調達について、今後も安定的な収集が可能かどうか。

**答.** この発電所周辺がバイオマス事業一体の工業地域となっており、住宅地域とは離れていることから、環境面における問題、トラブル等は特に発生していない。

燃料の調達については、現在、地域コミュニティの協力もあり、なんとか調達出来てはいるものの、FIT制度の期限や住宅端材の伸び悩み、物価高騰等々、調達における様々な問題が発生していることから、あらゆる分野において調査・研究しており、今後継続していくことが大変難しい段階に突入している。

**問.** バイオマス事業において、国土調査が完了し承諾を得ている地主から搬出する木材の利活用方法については、地主本人の意向が反映されているのか。また素材生産業者の従事者の平均年齢が40歳代とあるが、高齢化が進む上において何か手立てをしているのか。

**答.** 利活用については、国土調査による地籍図及び航空写真を用いたプラットフォームを整備し、個人情報に関する協定を締結した森林組合に情報を提供し、最適な方法を決定している。

平均年齢が比較的若いのは、高機能林業機械を扱う人材に若手（20～30歳代）が多いので、それが理由と思われる。

**問.** バイオマス発電所における木材等の燃焼時にダイオキシン類等の有害物質の測定はしているのか。

**答.** 測定はしていないが、規定に基づき発電を行っている。

**問.** バイオマス事業における木材の地域内供給と地域外供給の割合はどれ位か。

**答.** 地域内7：地域外3の割合で供給している。

**問.** 木質バイオマスリファイナリー事業を始めたきっかけとして、民間企業が主体となって始めたのか、真庭市が主導して始めたのか。

**答.** 当時、民間企業と併せて岡山県が積極的に動いて始めたのがきっかけである。

## ● 所感

今回、視察を行った真庭SDGsバイオマス事業について、人口減少と高齢化が進む中山間地域でありながら、SDGs未来都市に選定された真庭市の取り組みは、持続可能な地域づくりの先進事例として全国に発信されており、特にこの資源循環とバイオマスを活用した取り組みは、木材（廃材）資源の活用において、桜井市としても新たな視点を見出すことが出来たと思う。

真庭バイオマス集積基地第二工場、真庭バイオマス発電所といった具体的な施設の見学を通じて、バイオマスエネルギーの生産から利用までの一連の流れを深く理解できたことは大きな収穫であり、CLTに関する事業についても触れることができ、木材資源の未知なる可能性を探る上で、非常に興味深い経験となった。

またこの事業が継続出来ていることの大きな要因として、官民が一体となって取り組み、そして密に連携し、岡山県や国から安定的に協賛や財源（交付金・補助金等）を得ることにより、地域循環型の一大事業として確立出来たことが考えられ、真庭市への関心・注目度は、数値（成果）が示すように目指す方向へと向かっていると感じられた。

今回得られた知識や経験を活かした取り組みを、そのまま桜井市として進めていくことは難しいかもしれないが、官民一体の重要性や、地域づくりにおける新たな価値の共有等、様々な分野で非常に参考になるものばかりであり、大変意義のある視察であった。

## III 視察の様子





